

令和5年度シラバス

(Iコース3年文系)

日本大学東北高等学校

目 次

学校シラバス	…	1
I コース 3 学年教育活動シラバス	…	2 ~ 3
現代文 B	…	4 ~ 6
古典 B	…	7 ~ 10
世界史 B	…	11 ~ 14
日本史 B	…	15 ~ 17
現代社会	…	18 ~ 20
数学 II	…	21 ~ 23
数学 B	…	24 ~ 26
生物基礎	…	27 ~ 29
体育	…	30 ~ 33
コミュニケーション英語 III	…	34 ~ 36
英語表現 II	…	37 ~ 38
情報の科学	…	39 ~ 41
総合的な探究の時間	…	42 ~ 43

学校シラバス

校訓

- 1 忠恕の心：まごころを持って相手の心をおもいやること。
- 2 自主創造：自主的に学び、考え、広く世界的な視野を持つと共に、新しい自分、心豊かな自分を創造すること。
- 3 真剣力行：強い意志を持ち、目的に向かって全力を尽くすこと。

本年度の努力目標

- 1 奉仕と思いやりの心を持つ 2 新校舎を大切に学ぼう 3 対策をして楽しもう

取り組み項目	具体的な内容
キャリア教育, 教科指導を計画的に推進し, 学力の定着と向上を図り, 生徒の進路目標を達成する。	<ol style="list-style-type: none"> 1 シラバスを作成し, 生徒・保護者へ提示する。 2 進路ガイダンス等の各種説明会を通じて進路情報を提示し, 幅広いキャリアビジョンと確かな学力を身に付けた上で進路を決定する意識を構築する。 3 卒業前の3年生に, 学外からの出前講座, 教員による校内講座を行い, 幅広い教養を身に付ける。 4 日本大学工学部との高大連携事業を展開する。
国際理解教育を推進し, グローバル化社会に対応できる力を身に付ける。	<ol style="list-style-type: none"> 1 ネイティブ教員によるTT授業で, 英語の4技能の育成を図る。 2 課外講座で, 英会話講座を実施して語学力の育成を図る。 3 語学力育成とともに国際理解を深めることを目的に, ケンブリッジ大学・オーストラリア海外語学研修を実施する。(令和4年度は派遣中止)
自主的・主体的な学習への取り組みを通して, 社会に貢献できる人材を育成する。	<ol style="list-style-type: none"> 1 自学室・自習室・サポート室を活用し, 生徒が自ら学ぶ姿勢を育成する。 2 ICTを利用したアクティブ・ラーニング授業を実践する。 3 基礎学力到達度テスト対策に, 春期特別指導を実施する。 4 大学進学に向けて, 各種模擬試験の活用と夏期進学補習の充実を図る。 5 図書館を利用して, 生徒が自ら問題解決の糸口を見つけ出す姿勢を育成する。
学校行事や課外活動を通して, 人間的成長を促し, 円満な人格形成を図る。	<ol style="list-style-type: none"> 1 修学旅行を通して, 団体行動や平和について学習する。 2 部活動を通して, 心身を鍛え自主性や協調性を育成する。 3 文化祭などの学校行事を通して, 自主性や創造性, 協働性を身に付けるとともに, 仲間との達成感を共有する。 4 芸術鑑賞会を通して, 広く芸術に触れ, 親しむ心を育成する。 5 身だしなみ向上週間の活動を通じて, 自律心を育成する。
学校の安全管理を徹底するとともに, 安全教育を推進する。	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校安全計画, 防災マニュアル(安全管理マニュアル・衛生管理マニュアル・防火管理マニュアル)を実践する。 2 火災や地震を想定した避難訓練, および救急救命講習会や避難器具使用講習会等を実施する。 3 地歴公民や保健体育の授業, ホームルーム活動を通じて, 安全や健康について学習する。 4 交通安全教室, スマホ安全教室等を実施し, 生徒の危機管理意識を育成する。

I コース3学年 教育活動シラバス

月	指導内容等	指導のねらい
4	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期始業式・対面式 ・①体育クラス強化部集会 ・服装頭髪指導 ・登校指導・自転車安全教室 ・春季特別授業 ・後援会紙上総会，学級懇談会 ・基礎学力到達度テスト ・個人面談 ・シェイクアウト訓練 ・①進路希望調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りと目標の設定 ・生徒の自律，自覚指導 ・規範意識の高揚 ・登校時の安全指導 ・春季特別授業 ・保護者との連携 ・学力向上への啓蒙 ・精神面・生活面・学習面の個別指導・情報把握 ・防災避難訓練 ・進路を考える「力」の育成
5	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒総会 ・春の交通安全登校指導，自転車点検 ・校内体育大会 ・①参観授業 ・進路ガイダンス『志望理由書』 ・1学期中間試験 ・下宿訪問 ・①学校生活アンケート ・身だしなみ向上週間 ・①英検 ・①日大チャレンジ模試 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動への自主的参加 ・登校時の安全指導 ・級友と一致団結を図る ・授業の公開及び保護者との連携強化 ・受験を見据えた準備 ・普段の学習及び学力の定着確認 ・下宿生に対する生活指導 ・生徒の悩み等の把握 ・自己管理の徹底 ・資格取得へのチャレンジ ・進学に向けた学力向上を図る
6	<ul style="list-style-type: none"> ・衣替え，身だしなみ向上週間 ・①漢検 ・①数検 ・1学期期末試験 ・校外補導 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己管理の徹底 ・資格取得へのチャレンジ ・資格取得へのチャレンジ ・普段の学習及び学力の定着確認 ・校外補導
7	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者対象進学説明会 ・アカシア祭 ・進路ガイダンス『入試の仕組み』 ・三者面談 ・基礎学対策模試 ・1学期終業式 ・夏季進学補習 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者との連携 ・新たな自己の発見及びクラスメイトとの協働 ・受験準備 ・生徒の状況把握 ・基礎学力到達度テスト対策 ・1学期のまとめ ・学力の定着及び受験対策
8	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季進学補習 	<ul style="list-style-type: none"> ・学力の定着及び受験対策
9	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期始業式 ・服装頭髪指導 ・②体育クラス強化部集会 ・進路ガイダンス『出願準備』 ・校内日大模試 ・秋の交通安全指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・新学期スタート指導 ・規範意識の高揚 ・生徒の自律，自覚指導 ・受験準備 ・学力の定着確認及び受験対策 ・登校時の安全指導

	<ul style="list-style-type: none"> ・②進路希望調査 ・生徒会役員選挙 ・②参観授業 ・②学校生活アンケート ・基礎学力到達度テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路を考える力の育成 ・生徒会活動への積極的な参加 ・保護者との連携 ・生徒の悩み等の把握 ・日本大学付属高等学校等推薦入試
10	<ul style="list-style-type: none"> ・衣替え，身だしなみ向上週間 ・校内運動会 ・面談日 ・②英検 ・2学期中間試験 ・芸術鑑賞会 ・②漢検 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己管理の徹底 ・HR集団づくり ・保護者との連携及び生徒の受験指導 ・資格取得へのチャレンジ ・普段の学習及び学力の定着確認 ・文化面及び情操面の教育 ・資格取得へのチャレンジ
11	<ul style="list-style-type: none"> ・身だしなみ向上週間 ・学校推薦型選抜入試対策期間 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己管理の徹底 ・進路を考える「力」の育成
12	<ul style="list-style-type: none"> ・身だしなみ向上週間 ・2学期期末試験 ・学年集会 ・2学期終業式 ・クリスマスフェスタ 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己管理の徹底 ・普段の学習及び学力の定着確認 ・規範意識，卒業に向けた意識の高揚 ・2学期の総括 ・文化活動の発表体験
1	<ul style="list-style-type: none"> ・3学期始業式 ・服装頭髪指導 ・③体育クラス強化部集会 ・③英検，③漢検 ・学年集会 	<ul style="list-style-type: none"> ・新学期へのスタート指導 ・規範意識の高揚 ・生徒の自律，自覚指導 ・資格取得へのチャレンジ ・規範意識，卒業に向けた意識の高揚
2	<ul style="list-style-type: none"> ・予餞会 ・②数検 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生送別会 ・資格取得へのチャレンジ
3	<ul style="list-style-type: none"> ・賞状授与式，卒業式予行演習 ・卒業式 	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間の総括 ・3年間の総括

科目	単位数	対象学年	対象クラス
現代文 B	4	3 学年	I コース文系

教科書名 新編 現代文 B (数研出版) ※継続使用

副教材名 現代語練習帳ことのは (いわずな書店) ※継続使用

改訂版よむナビ現代文 2.5 修練編 (尚文出版)

新版六訂カラー版新国語便覧 (第一学習社) ※デジタル版 ※継続使用

1. 科目目標

- ①近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を育成し、伝え合う力を高める。
 ②出題者の意図を読み取りながら、設問を分析して問題を解く読解方法を身につける。
 ③語彙力を高め、ものの見方や感じ方、考え方を深め、人生を豊かにする態度を身につける。

2. 学習計画及び評価方法

	月	学 習 内 容	学習のねらい
1 学 期	4	○基礎学力到達度テスト演習 「よむナビ現代文」 1・2・4・5 【基礎学力到達度テスト：4/20】	○時間を意識して問題を解く感覚を身につける。 『現代語練習帳ことのは』の小テストを通して、入試に必要な語彙力を身につける。
	5	○随想 東 浩紀「弱いつながり」	○文章の展開と構造から筆者の主張を読み取る 対比的な表現に注目し、発想の根幹を理解する
		○評論 島村 輝「子どもの言葉」 ○「よむナビ現代文」 3・7・6・8 【1 学期中間試験：5/22～】	○子どもと大人、そして詩人の言葉の違いを考えることで、「言葉の力」を理解する。
	6	○評論 港 千尋「文化としての色」	○色彩をテーマに論じた日本文化論に興味関心 をもち、灰色について考察し積極的に肯定する 筆者の意見を読み取る。茶の湯（日本文化） について理解を深める。
		○小説 原田 ハマ『無用の人』 ○「よむナビ現代文」 9・10・11・12	○主人公が「父」から送られた「鍵」の意味を理 解する過程を読み取り、主人公や「父」の美意 識、主人公からみた「父」の人生について考 える。
	7	【1 学期期末試験：6/27～】 【夏課題】 「現代練習帳ことのは」確認 P D F 配信	
	【課題・提出物】 「授業ノート」「よむナビ現代文 2.5 プラス」「小テスト」等		
【1 学期の評価方法】 定期試験の素点に 30%を上限とした平常点（課題・提出物・小テスト・授業態度等）を加味して、 学期末ごとに総合評価を付ける。			

	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9	○基礎学力到達度テスト演習 「よむナビ現代文」 14 ・ 16 ・ 18 ・ 19 【基礎学力到達度テスト：9/28】	○時間を意識して問題を解く感覚を身につける。
		○評論 上田 紀行 「内的成長」社会へ	○言い換えに着目して読解し、筆者の主張を読み取る。
	10	○小説 山田詠美 『ひよこの眼』	○一人称回想形式の語りに留意し、謎とその解答の意味を読み取る。事故の現在について考える。
		○「よむナビ現代文」 15 ・ 17 ・ 20 ・ 21 【2学期中間試験：10/10～】	○人物の置かれた状況や言動、風景描写など描かれるさまざまなものから心情を読み取る。
	11	○評論 岩井克人 「ホンモノのおカネの作り方」	○貨幣とそれを利用した経済活動の基本的な発送を学ぶ。逆説的な表現による論理展開の面白さを学ぶ。二項対立的な事象の提示による説明の明解さを学ぶ。※現代のデジタルマネーについても学習する。
	12	○小説 中島敦『山月記』	○本文から登場人物の性格と心情を読み取る。また、現代人の生き方や自我に関わる問題として身近に捉え、主題について考える。
		○「よむナビ現代文」 22 ・ 23 ・ 【2学期期末試験：12/4～】 【冬課題】 「よむナビ現代文」 13 ・ 24 ・ 25	※100字要約練習1～3を含む。
【課題・提出物】 「授業ノート」「よむナビ現代文2.5プラス」「小テスト」等			
【2学期の評価方法】 定期試験の素点に20%を上限とした平常点（課題・提出物・小テスト・授業態度等）を加味して、学期末ごとに総合評価を付ける。			
	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	12	○ことのは漢字テスト総合問題	○確認テストを通じて獲得した語彙を確認する。
	1	○高校3年間で振り返り短歌を作り、 クラス紙上短歌会を実施する。	○自分の体験を文芸として言語化し、3年間の思い出をクラス内で発表し合い共有する。
【課題・提出物】「創作短歌」「よむナビ現代文2.5プラス」「小テスト」等			
【年間の学習状況の評価方法】 1～2学期の定期試験の素点に20%を上限とした平常点（3学期分を含む）を加味して総合評価を付ける。			

3. 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	○授業に取り組む態度・姿勢 ・意欲的に授業・学習活動に取り組んだか。 ○学習課題への取り組み ・問題や問いに対して答えようとしていたか。	○授業態度や学習活動への取り組み方 ○課題(ノート・その他)の提出状況
思考・判断	○筆者(作者)の考えや主張に対する理解状況 ・作品を読み、筆者(作者)の考えや主張を理解しているか。 ・情景描写等を基に人物の心情を理解しているか。 ・さまざまな語彙や表現技法等に注意しながら、本文の内容を理解しているか。	○学習活動への取り組み状況 ○課題(ワークシート等)やノートチェック ○定期試験・模試
技能・表現	○考えや感想をまとめる ・筆者(作者)の考えや主張を記述等で表現できるか。 ・自分の考えや感想を記述等で表現できるか。 ・短歌(31文字)を通じて、高校での思い出を心情豊かに表現できたか。	○学習活動への取り組み状況 ○課題(ワークシート等)やノートチェック ○定期試験・模試 ○短歌への取り組み
知識・理解	○語彙力や表現力の活用・応用 ・「よむナビ現代文2.5プラス」等を活用し、さまざまな表現技法を身に付けたか。 ・「現代語練習帳ことのは」等を活用し、語彙力の向上に努めたか。	○定期試験・模試 ○小テスト ○学習活動への取り組み状況 ○課題(ワークシート等)やノートチェック

4. 学習サポート(事前・事後学習等について)

<p>○忘れ物や課題の提出遅れ等のないように取り組むこと。</p> <p><毎時間準備するもの> 教科書・iPad(配布カード)・辞書(Web)</p> <p>※「よむナビ現代文2プラス」「国語便覧」・「現代語練習帳ことのは」必要に応じて持参すること。</p> <p>○問題や問いに対して解決しようとする姿勢をもつこと。教材等から語彙力・表現力を身につけようとしながら基礎学力の定着を図ること。</p> <p>○主体的かつ意欲的に学習に取り組むこと。辞書(iPadのWeb機能)や・デジタル便覧等を活用し、調べて考えること。</p>
--

科目	単位数	対象学年	対象クラス
古典B	3	3	Iコース文系

教科書名 古典B (教育出版)

副教材名 必携これからの古典文法 (尚文出版) 古典文法練習ノート (尚文出版)

精選漢文 (尚文出版) 精選漢文基本練習ノート (尚文出版)

古典グレートラーニング 48 レベル1 (尚文出版)

古典文法集中トレーニング 用言編/助動詞編/敬語・識別編 (いわずな書店)

改訂版よむナビ古典 2.5 修練編 (いわずな書店)

新版六訂カラー版新国語便覧 (第一学習社) ※デジタル版 継続しよう

1 科目目標

- ①古文と漢文を読むことを通して日本文化や日本文化に影響を与えた中国文化を学び、広い視野と多様な思考を育成する。
- ②古典作品を通して古人の考えを理解する。
- ③文法や語彙、古典知識を学び古典文学を読み解く力を身に付ける。

2 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	○基礎学力到達度テストに向けての演習 授業 (3~4) 【基礎学力到達度テスト : 4/20】	○2年次の既習内容 (古典の語彙・文法・知識等)を確認する。
	5	○ 古文 歴史物語「大鏡」〈南院の競射〉 (6) ○ 漢文 逸話「後漢書」〈糟糠之妻〉(4) ○古典の演習(1~2) 「よむナビ古典」 「古典文法集中トレーニング」 【1学期中間試験 : 5/22~】 【日大チャレンジ模試 : 5/31】	○歴史物語のエピソードや登場人物の人間像を的確に捉え、敬語に注意しながら作品の価値を理解する。 ○故事・逸話に語句の意味や用法を用いて故事成語の成り立ちを理解する。 ○演習を通して古文・漢文の語彙・文法・知識を用いた実践的な読解方法を身に付ける。

	6	<p>○古文 評論「無名抄」〈俊成自讃歌のこと〉(4～5)</p> <p>○漢文 歴史「史記」〈勿頸之交〉(6)</p> <p>○古典の演習(2～3) 「よむナビ古典」 「古典文法集中トレーニング」</p> <p>【1学期期末試験：6/27～】</p>	<p>○和歌に関する評論を読み、作品の根底にある発想を知ることによって作品を読解・鑑賞する力を育成するとともに、わが国の伝統と文化を理解する。</p> <p>○中国の正史を学び、壮大な歴史や人物関係、人物像に触れることで広い視野と多様な思想を育成する。</p> <p>○長文を通して漢文の表現に慣れ、語句や句形の知識を身に付ける。</p> <p>○演習を通して古文・漢文の語彙・文法・知識を用いた実践的な読解方法を身に付ける。</p>
	7	<p>【夏季休業課題】 「よむナビ古典」「古典文法集中トレ」 「古典グレートラーニング 48」</p>	
<p>【課題・提出物】</p> <p>○授業ノート・よむナビ古典 2.5・古典文法集中トレーニング・古典グレートラーニング 48 等</p> <p>○授業内で小テストを実施する。</p>			
<p>【1学期の評価方法】</p> <p>定期試験の素点に30%を上限とした平常点（課題・提出物・小テスト・授業態度等）を加味して、学期末ごとに総合評価を付ける。</p>			
	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9	<p>【校内日大模試：9/1】</p> <p>○古文 日記文学「蜻蛉日記」 〈鷹を放つ〉(6)</p> <p>○古典の演習(4～5) 「よむナビ古典」 「古典文法集中トレーニング」</p> <p>【基礎学力到達度テスト：9/28】</p>	<p>○女性による日記作品を読み、当時の宮廷女性の生き方を知るとともに作品に表れるものの見方や感じ方、考え方を身に付ける。</p> <p>○演習を通して古文・漢文の語彙・文法・知識を用いた実践的な読解方法を身に付ける。</p>

10	○ 漢文 思想「韓非子」〈侵官之害〉(4)	○韓非子の思想を理解する。
	【2学期中間試験：10/10～】	
11	○ 漢文 小説「搜神記」〈千日酒〉(6)	○六朝時代に始まった「志怪小説」について知り、
		中国の小説の流れに理解する。
		○全体を起承転結に整理し、小説としての効果的
		な構成を理解する。
	○ 古文 随筆「枕草子」〈二月つごもり	○「枕草子」を読み、その自由な感性と文体の魅力
	ころに〉(5)	にふれ味わうことによって、ものの見方、感じ
		方、考え方を身に付ける。
	○古典の演習(3～4)	○演習を通して古文・漢文の語彙・文法・知識を
	「よむナビ古典」	用いた実践的な読解方法を身に付ける。
	「古典文法集中トレーニング」	
12	○ 漢文 文「帰田録」〈売油翁〉(4)	○唐宋八大家として著名な欧陽脩の文章を読み、
		そこにこめられた作者の人間・社会などに対する
		思想や感情を読み取り、ものの見方・考え方を
		身に付ける。
	【2学期期末試験：12/4～】	
	○ 漢文 史話「春秋左氏伝」〈宋襄の	○書き手や文章中の人物の人間・社会・自然など
	仁〉(3)	に対する思想や感情を読み取る力を育成する。
	○ 古文 和歌〈王朝の和歌〉(4～5)	○代表的な和歌を読み、人間・社会・自然などに
		対する心情を理解する。
		○和歌の修辞法を理解する。
	【夏季休業課題】	
	「よむナビ古典」	
【課題・提出物】		
○授業ノート・よむナビ古典 2.5・古典文法集中トレーニング・古典グレートラーニング 48 等		
○授業内で小テストを実施する。		
【2学期の評価方法】		
定期試験の素点に 20%を上限とした平常点(課題・提出物・小テスト・授業態度等)を加味		
して、学期末ごとに総合評価を付ける。		

	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	○古文 和歌〈王朝の和歌〉(4～5)	
		【課題・提出物】 ○授業ノート・よむナビ古典2.5・古典文法集中トレーニング・古典グレートラーニング48等	
【年間の学習状況の評価方法】 1～2学期の定期試験の素点に20%を上限とした平常点(3学期分を含む)を加味して総合評価を付ける。			

3 観点別評価内容および評価方法

	観点別評価内容	評価方法
関心・意欲・態度	○授業に取り組む態度 ・教材に興味を持って意欲的に学習活動に取り組んでいるか。 ○学習課題への取り組み状況 ・古典文学を理解するための努力をしているか。	○授業態度や学習活動への取り組み方 ○課題等の提出状況
思考・判断	○古典文法を応用した文意の理解状況 ・古典文学を読み、内容を把握し、登場人物の心情を読み取り、作者の考え方を理解しているか。	○学習活動への取り組み状況 ○ワークシートやノートのチェック ○定期テスト・模試
技能・表現	○感想や意見のまとめ ・語彙や文法事項、古典知識に注意し、本文を読み理解しているか。	○学習活動への取り組み状況 ○ワークシートやノートのチェック ○定期テスト・模試
知識・理解	○古典語の語彙や表現力の活用と応用 ・古典の基礎知識が身に付いているか。 ・古典文学を読むことで、広い視野や柔軟な思考を育むことができているか。	○小テスト ○定期テスト・模試 ○学習活動への取り組み状況

4 学習サポート(事前・事後学習等について)

<p>○予習と復習を怠らないこと。「これからの古典文法」「精選漢文」を使って自主的に学習活動に励み、基礎学力の向上を努めること。</p> <p>○主体的かつ意欲的に学習活動に参加すること。</p> <p>○忘れ物や課題の提出遅れの等のないように取り組むこと。</p> <p>《毎時間準備するもの》</p> <p>【古文分野】…教科書・ノート・これからの古典文法等</p> <p>【漢文分野】…教科書・ノート・精選漢文等</p>

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
世界史 B	4	3 学年	I コース文系

教科書名 詳説 世界史 B

副教材名 新詳世界史図説

世界史 B 用語集

詳説世界史スタンダードテスト

1. 科目目標

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ① 世界の歴史の大きな枠組みと流れを、我が国の歴史と関連づけながら理解する。 ② 世界の歴史における文化の多様性と現代世界の特質を広い視野から考察する。 ③ 歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。 |
|---|

2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	(1) ラテンアメリカの独立 (2) アメリカ合衆国の領土拡大 (3) 南北戦争とその結果 (4) アメリカ合衆国の大国化 (5) 19世紀欧米の文化 (6) オスマン帝国支配の動揺 (7) オスマン帝国の改革	<ul style="list-style-type: none"> ・19世紀のアメリカ大陸の動きを理解する。 ・アジア諸国が改革に模索する様子を理解する。
	5	(8) インドの植民地化 (9) インド大反乱 (10) 東南アジアの植民地化 (11) 清朝の動揺と欧米諸国の進出 (12) 清朝の動乱と近代化の始動 (13) 明治維新と東アジアの再編	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパの進出に対するアジア諸国の外交・内政と、アジア同士の国際関係を理解する。 ・第2次産業革命の中、アジアにおける対応の様子を各地域の特色を踏まえ理解する。
		1 学期中間試験	
	6	(14) 帝国主義の成立 (15) 仏・独・露の帝国主義政策 (16) アメリカの帝国主義政策 (17) アフリカの植民地化 (18) 太平洋諸地域の分割 (19) 中国分割の危機 (20) 日露戦争と韓国併合 (21) 辛亥革命 (22) インドの民族運動 (23) 東南アジアにおける民族運動	<ul style="list-style-type: none"> ・「帝国主義の時代」が始まり、欧米諸国による世界分割が進むことを学ぶとともに、アジアにおける対応の様子を各地域の特色を踏まえ理解する。 ・辛亥革命の性格および成果について考察する。 ・移民先の変化を理解するとともに、後から合衆国に移住した人々の生活を調査・研究してみる。 ・太平天国を従来の反乱と対比して理解する。 ・ヨーロッパに対し、軍事的に劣勢に立たされたアジア諸国での民族運動の形成を理解する。

	6	演習 古代オリエント世界 ギリシア世界 ローマ世界 インドの古典文明・東南アジア 中国の古典文明 1 学期期末試験	・基礎学力試験に向けた問題演習を行い、問題を解く力をつける。
	【課題・提出物】 ・授業中に配布するプリントの提出（定期試験時に提出）		
	【第1学期の評価方法】 ① 定期試験の成績（70%） 知識・理解の確認を行う。基礎学力到達度試験をイメージした問題も出題する。 ② 授業態度・確認テスト・提出物などの評価〔＝平常点〕（30%） ・授業中に行う確認テストなどの結果で評価する。 ・授業態度・課題提出状況・授業プリントノート提出内容等を評価する。		
	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9	演習① イスラーム世界の形成 演習② 西・東ヨーロッパ世界の成立 演習③ 東アジア世界（宋～元） 演習④ 東アジア世界（明～清） 演習⑤ トルコ・イラン世界 演習⑥ 大航海時代～宗教改革 演習⑦ 主権国家～近世ヨーロッパ 演習⑧ 近代ヨーロッパ・アメリカ 演習⑨ 欧米近代国民国家の展開 演習⑩ 総合問題1 演習⑪ 総合問題2 基礎学力到達度テスト 第14章 二つの世界大戦 （1）バルカン半島の危機 （2）第一次世界大戦 （3）ロシア革命・ソ連の成立 （4）ヴェルサイユ体制・ワシントン体制 （5）国際協調と西欧の停滞	・基礎学力試験に向けた演習を行い、問題を解く力をつける。 ・バルカン情勢の複雑さを、列強の世界政策の対立および民族問題の面からも考察する。 ・第一次世界大戦に至る世界情勢と、大戦中に革命が開始するロシア情勢を理解する。 ・国際連盟の成立過程、および平和構築に向けての世界初の動きについて理解する。
	10		

<p>11</p> <p>12</p>	<p>(6) イタリアのファシズム (7) ソ連とアメリカ合衆国 (8) 予備</p> <p>2学期中間試験</p> <p>(9) 第一次世界大戦と東アジア (10) 国民党と共産党 (11) インドにおける民族運動 (12) トルコ革命とアフリカの民族運動 (13) 世界恐慌 (14) 満州事変と日中戦争 (15) ナチスとヴェルサイユ体制の破壊 (16) ソ連のスターリン体制 (17) 第二次世界大戦(ヨーロッパ戦争) (18) 第二次世界大戦(太平洋戦争) (19) ファシズム諸国の敗北と終戦</p> <p>(20) 二次大戦後世界の秩序 (21) 米ソ冷戦の始まり (22) 中華人民共和国の成立 (23) 朝鮮戦争とアメリカ合衆国 (24) 西欧と日本の復興と「雪どけ」 (25) 第三世界の連携 (26) ラテンアメリカとキューバ革命 (27) ヨーロッパでの緊張緩和 (28) ベトナム戦争とインドシナ半島 (29) 国際経済体制のいきづまり (30) 先進国の社会変容</p> <p>2学期期末試験</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦後のヨーロッパの様子を理解する。 ・アジアにおける第一次世界大戦後の様子や動きを理解する。 ・中国の民族運動の進展と、エジプトやアラビアの独立運動を理解する。 ・恐慌の原因と対策、日・独・伊枢軸国の結成の背景を理解する。 ・独ソ戦から太平洋戦争、戦後処理に至るまでの国際情勢を整理する。 ・国際連合は、米・英主導による連合国の平和機構として発足した点を認識する。 ・戦後の西欧と東欧諸国との体制や政治の違いを認識する。 ・アメリカとソ連の対立がエスカレートする過程を、具体的な出来事を踏まえて考察する。 ・冷戦はあくまでもヨーロッパのことであって、アジアでは朝鮮戦争のように熱い戦争になった事実を認識する。 ・なぜアジア・アフリカ諸国が第三勢力に結集したかを考察する。 ・世界が一体となりつながりが深くなった国際経済体制の問題を理解する。
<p>【課題・提出物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業中に配布するプリントの提出（定期試験時に提出） 		

<p>【第2学期の評価方法】</p> <p>① 定期試験の成績 (80%) 知識・理解の確認を行う。基礎学力到達度試験をイメージした問題も出題する。</p> <p>② 授業態度・確認テスト・提出物などの評価 [=平常点] (20%) ・授業中に行う確認テストなどの結果で評価する。 ・授業態度・課題提出状況・授業プリントノート提出内容等を評価する。</p>			
月	学習内容	学習のねらい	
3 学 期	1	(1) 東欧の民主化とソ連の解体 (2) 情報技術革命の進展 (3) 途上国の民主化 (4) 東欧・ロシアの地域紛争 (5) 中東・アジアの地域紛争 (6) 科学技術と現代思想・文化 (7) ~ (12) 映像教材を使用した学習 NHKスペシャル「映像の20世紀」	・冷戦終結後の世界について、政治・文化・経済等のグローバル化が、「アメリカ化」であることに反発がおこっていることを理解する。 ・冷戦の枠組みがはずれ、多極化するなかで頻発する地域紛争解決の難しさを理解する。 ・映像で残された歴史的出来事を見て、歴史的な出来事の本当の様子を考察する。 ・レポート提出で、理解と考察内容を確認する。
	【課題・提出物】 ・授業中に配布するプリントの提出 (最後の授業日を提出日とする)		
	【第3学期の評価方法】 ① 授業態度・確認テスト・提出物などの評価 [=平常点] ・授業中に行う確認テストなどの結果で評価する。 ・授業態度・課題提出状況・授業プリントノート提出内容等を評価する。		
【年間の学習状況の評価方法】 評価は、1学期期末・2学期中間・2学期期末ごとに行う。 年間の成績は、学年末に各学期の成績を総合して評価する。			

3. 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	世界史に興味関心を持ち、自ら進んで授業に参加し、積極的に自分の考えを明らかにできる。	・授業時の様子 ・授業用プリント
思考・判断	先入観にとらわれることなく、公正な立場から考察していくことができる。	・授業の様子 ・定期試験
技能・表現	授業で得た知識をもとに、歴史的事件の因果関係を解き明かすことができる。	・授業の様子 ・定期試験
知識・理解	授業内容を正確に理解し、教科書・用語集を読みこなすことができる。	・授業用プリント ・定期試験

4. 学習サポート (事前・事後学習等について)

随時、学習相談を実施するので、学習についての悩みや問題がある場合には、早めに解決しましょう。

科目	単位数	対象学年	対象クラス
日本史B	4	3学年	Iコース文系(日本史)

教科書名 詳説 日本史B 改訂版 (山川出版社)

副教材名 最新日本史図表 (第一学習社) 日本史B日本史総合テスト改訂版 (山川出版社)

1 科目目標

○我が国の歴史を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察させ、国民としての自覚と国際社会に生きる現代人としての資質を養うと共に、歴史事象について公正に判断する思考力や理解力を身に付ける。

○我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、各時代の特色とその変遷を捉え、歴史と現代の結びつきを認識する能力を身に付けると共に、主体的に歴史を学ぶ姿勢を養う。

2 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい	
1 学 期	4	第6章 幕藩体制の確立 1 織豊政権 2 桃山文化 3 幕藩体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・諸資料から鉄砲とキリスト教の伝来を通して世界と日本が繋がったことを理解する。 ・織豊政権の特徴と発展を理解する。 ・江戸幕府の成立と幕藩政治の展開を中世との政治と比較し多面的に理解する。 	
	5	4 幕藩社会の構造 ◎1学期中間試験		
	6	第7章 幕藩体制の確立 1 幕政の安定 2 経済の発展 3 元禄文化	<ul style="list-style-type: none"> ・幕政を当時の日本国内の状況と結び付けたうえで理解する。 ・諸資料から江戸時代の経済状況を把握し、江戸の発展が現代日本と密接に結びついていること理解する。 	
		第8章 幕藩体制の動揺 1 幕政の改革 2 宝暦・天明期の文化		
	7	3 幕府の衰退と近代への道 4 化政文化 ◎1学期期末試験	<ul style="list-style-type: none"> ・幕政に改革が求められた背景を世界との関係性や日本国内の状況から複合的に理解する。 	
	【課題・提出物】			
	①内容の項目ごとの確認プリント ②日本史B 日本史総合テストの予習・復習 ③授業内で課されたワークシートや授業ノート			
【1学期の評価方法】				
①定期試験素点(80%)：授業で扱った内容を大学共通テストなどの傾向も踏まえて出題する。 ②平常点(20%)：学習への取り組み状況(課題提出、授業ノート)、授業への姿勢など。				

	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9	基礎学力到達度テストに向けて過去問を使用した演習	・志望校合格に向けて各自が自身の学習を振り返り進路を実現する力を身に付ける。
	10	第9章 近代国家の成立	・幕末における日本と世界を取り巻く環境のうねりを多面的に理解する。
		1 開国と幕末の動乱	
	11	2 明治維新と富国強兵	・明治維新の諸改革について理解する。 ・諸資料を基に日本が清やロシアと戦争に至った背景を理解する。 ・明治時代の産業や文化を近代と比較して、その特徴を理解する。 ・日本が二つの大戦に参戦した原因と結果を、当時の国際状況から理解する。 ・昭和時代の経済についてグラフや表を基に、その状況を分析し理解する。 ・日本が軍国主義、そして敗戦に至った経緯を正しい歴史認識のもと理解している。
		◎2学期中間試験	
		3 立憲国家の成立と日清戦争	
		4 日露戦争と国際関係	
		5 近代産業の発展	
		6 近代文化の発達	
	12	第10章 二つの世界大戦とアジア	・日本が二つの大戦に参戦した原因と結果を、当時の国際状況から理解する。 ・昭和時代の経済についてグラフや表を基に、その状況を分析し理解する。 ・日本が軍国主義、そして敗戦に至った経緯を正しい歴史認識のもと理解している。
		1 第一次世界大戦と日本	
		2 ワシントン体制	
3 市民生活の変容と大衆文化			
4 恐慌の時代			
5 軍部の台頭			
2 学 期	6 第二次世界大戦	・日本の戦後改革と、日本を取り巻く世界の状況を結びつけて理解する。 ・諸資料から日本の政治や経済がどのように立ち直ったのか理解する。 ・冷戦の勃発が日本にどのような影響を与えたのか判断し、当時の日本の状況を理解する。	
	第11章 占領下の日本		
12	1 占領と改革	・現代に生きる日本人・社会人として自分にできることを理解する。	
	2 冷戦の開始と講和		
	第12章 高度成長の時代		
	1 55年体制		
2 学 期	2 経済復興から高度成長へ	・現代に生きる日本人・社会人として自分にできることを理解する。	
	第13章 激動する世界と日本		
2 学 期	1 経済大国への道	・現代に生きる日本人・社会人として自分にできることを理解する。	
	2 冷戦の終結と日本社会の変容		
◎2学期期末試験			
【課題・提出物】			
①夏期休業中の課題(基礎学力到達度テストに向けた演習)			
②内容の項目ごとの確認プリント			
③日本史B 日本史総合テストの予習・復習			
④授業内で課されたワークシートや授業ノート			
⑤自らが設定したテーマに対する探究課題			
【2学期の評価方法】			
①定期試験素点(80%)：授業で扱った内容を大学共通テストなどの傾向も踏まえて出題する。			
②平常点(20%)：学習への取り組み状況(課題提出、授業ノート)、授業への姿勢など。			

	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	特別授業 歴史と現代の結びつきを政治・経済・ 文化・科学の面から考察する	・歴史学習のまとめとして、資料を基に主体的に 歴史課題を探求し、その課題の解決に向けた道 筋を理解する。
	【課題・提出物】 特別講義内の課題		
	【3学期の評価方法】 学習態度や授業への姿勢に基づく平常点		
【年間の学習状況の評価方法】 1学期末と2学期中間（1学期と2学期中間までの成績）に進学用の仮評価を行う。 年間の成績は、学年末に各学期の成績を総合して評価する。			

3 観点別評価内容および評価方法

	観点別評価内容	評価方法
関心・意欲・態度	日本の歴史に対する関心を高め、主体的に歴史を 探求する意欲をもち、現代社会で求められる日本 人としての役割を果たそうとしている。	授業態度 ワークシート 課題への取り組み
思考・判断	日本の歴史の発展から課題を見だし、国際環境 と関連付けて多面的・多角的に考察し、日本の文 化と伝統の特色についての認識を深め、歴史事象 に対する認識を公正に判断している。	授業態度 定期考査 課題への取り組み 授業ノート
技能・表現	日本の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用 な情報を適切に選択して、読み取ったり図表にま とめたりしている。	ワークシート 授業ノート レポート課題
知識・理解	日本の歴史の展開についての基本的な事柄を、世 界との繋がりも踏まえた上で総合的に理解し、そ の知識を身に付けている。	定期考査 授業プリント レポート課題

4 学習サポート（事前・事後学習等について）

<p>○授業は教科書・副教材を参考に、講義形式を中心に行う。</p> <p>○授業中はノートをとると共にメモ書きを増やしていく。板書事項を写すだけでは、ただの作業であり、真の学力は身につかない。授業内容に関する質問も大歓迎である。</p> <p>○事前学習は歴史に興味をもつことである。日常の当たり前前に疑問をもつ習慣を身に付けること。そのためには日頃から歴史に関わる事柄以外にも多くの情報に触れること。</p> <p>○授業ごとの復習を徹底的に行う。一夜漬けの学習では学力・定期試験の点数には結びつかない。徳川家康は次の言葉を残している。「人の一生は重荷を負うて遠き道を行くがごとし。急ぐべからず」。地道な積み重ねを確実に増やしていくことが学力向上の最大の秘訣である。</p> <p>○「歴史＝暗記」ではない。地道な積み重ねの先にある歴史の探求こそが学習のメインである。</p>
--

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
現代社会	2	3 学年	I コース文・理共通

教科書名 高等学校 新現代社会 新訂版 (清水書院)

副教材名 2024 大学入試共通テスト対策 つかむ現代社会「新センター現代社会」改訂版 (浜島書店)

1. 科目目標

- 人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めることにより、現代社会の基本的な問題について主体的に考え公正に判断するとともに自ら人間としての在り方、生き方について考える力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を身につける。
- 思想は歴史的背景と前時代の課題を受けて成立するものであり、先哲の思想を学ぶことで人間とは何か、自分はどうかあるべきかを深く探求する。

2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	第1編 青年期と自己の形成 第1章 青年のあり方と現代 1 青年期と私たち	<ul style="list-style-type: none"> ・内なる自分をしっかり見つめ、孤独感・劣等感など青年期特有の心理に関する理解を習得する。 ・学び続けることの意義を理解する。 ・青年期における人格の形成に大きく影響を及ぼす社会環境とは、家族や友人、学校だけでなく、読書やマスコミ、政治・経済や社会的価値観なども含む広範囲なものであることを理解する。 ・「知ること」「学ぶこと」の目的や探究・学習・研究の方法など、学びの基本を理解する。 ・先哲の思想や実践活動から生命の尊重、人間の尊厳、それらを基本原則とする民主社会のあり方について抽象的理論倒れにならぬよう具体的に理解する。
	5	2 自分らしさとは何だろうか 3 現代社会と私たち 第2章 現代に生きる倫理 1 学びの源流 ギリシア哲学 1 学期中間試験	
	6	2 私たちの生き方と宗教 3 中国の伝統思想 第3章 近・現代の社会と倫理 1 近代思想の形成 2 人間の自由と幸福 1 学期期末試験	
<p>【課題・提出物】 期末試験後に授業ノート・ワークノート提出</p> <p>【第1学期の評価方法】</p> <p>①定期試験の成績 教科書の範囲内の重要語句や語句を理解しているか出題する。</p> <p>②学習課題、および学習態度の平常点 (30%以内)</p>			

	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9	第2編 現代の民主政治と法 第4章 現代日本の政治機構と政治参加 1 国会の役割と仕組み 2 内閣と行政機関	<ul style="list-style-type: none"> ・国会が国権の最高機関であると憲法に規定されているが、実際には地位が低下していること、国会中心の政治を展開するために必要なことを考察する。 ・日本国憲法における議院内閣制の意義や、内閣と内閣総理大臣の権限について理解する。 ・裁判制度については、三審制のしくみや最高裁判所の地位と権限を理解し、裁判員制度についての理解を深める。 ・経済をかたちづくる3つの部門の役割と機能について考察する。 ・市場機構によって解決できない問題など、具体例を通して理解する。 ・経済指標としての国民所得やGDP、および国民生活の豊かさを支えるフローとストックの意味を理解する。 ・金融に関する基礎知識及び、しくみを理解する。 ・マネーサプライと金融機関の意義を理解する。 ・財政のしくみや租税についての基礎知識を理解する。 ・資本主義経済のしくみとその特徴を理解する。 ・資本主義経済の発展と変容を、その矛盾を克服する試みとして登場した社会主義経済と比較しながら理解を深める。
	10	3 裁判所の役割 4 裁判と裁判員制度 2学期中間試験	
	11	第3編 現代の経済 第1章 経済社会とその仕組み 1 市場と経済主体 2 経済成長と景気変動 3 金融とその働き 4 財政とその働き 5 資本主義社会のしくみとその変容	
	12	2学期期末試験	
<p>【課題・提出物】 期末試験後に授業ノート・ワークノート提出</p> <p>【第2学期の評価方法】 ①定期試験の成績 教科書の範囲内の重要語句や語句を理解しているか出題する。 ②学習課題、および学習態度の平常点（20%以内）</p>			
	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	第2章 経済活動のあり方 1 日本経済のあゆみ 2 現代の企業とその課題	<ul style="list-style-type: none"> ・明治以降から現代にいたるまでの日本経済の発展過程を、それぞれの時期の特徴を踏まえて理解する。 ・企業のおかれている現状を理解し、企業の責任など、新しい問題への取り組みなどを考察する。

<p>【課題・提出物】 授業ノート・ワークノート提出</p>
<p>【第3学期の評価方法】 ○授業に対する意欲と関心</p>
<p>【年間の学習状況の評価方法】 ○総合評価は、学期末ごとに行う。総合成績には平常点が含まれる。 ○平常点は以下を踏まえて、20%以内とする。(1学期のみ30%以内) ①授業に対する意欲と関心 ②課題等への取り組み(宿題・レポート等) ③年数回のノート提出(板書事項・配布プリントの確認)</p>

3. 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	現代社会に興味・関心を持ち、自ら進んで授業参加と、積極的な発言ができています。	○授業の様子 ○授業ノート
思考・判断	偏見を除き、公平・公正な立場から社会的判断を身につけることができています。	○授業の様子 ○授業ノート ○定期試験
技能・表現	授業で得た知識をもとに、社会において必要な表現力を導き出すことができています。	○授業の様子 ○定期試験
知識・理解	授業内容を適切に理解し、教科書・用語集を読みこなすことができています。	○授業の様子 ○授業ノート ○定期試験

4. 学習サポート(事前・事後学習等について)

<p>現代社会は時事問題などを例に挙げ、新聞やニュースで聞いたことのある内容も勉強し、卒業後に社会を生き抜く必要な知識が身につくよう、サポートしていきたい。</p> <p>苦手意識を持たずに積極的な授業参加を期待しているが、理解できなかったこと、疑問点があれば、どんどん質問に来てほしい。</p>
--

科目	単位数	対象学年	対象クラス
数学Ⅱ	3	3 学年	I コース文系

教科書名 改訂版 新編 数学Ⅰ・A・Ⅱ・B (数研出版)

副教材名 基本と演習テーマ 数学Ⅰ+A・Ⅱ+B (数研出版)

1. 科目目標

- ・基礎学力到達度テストに対応できる学力を身につける。
- ・知識の習得と技能の習熟を図り、数学的な考え方（論理的思考）を身につける。
- ・自発的な学習ができるような授業を展開し、家庭学習の確保に努める。
- ・高校数学の良さを理解し、多様な物の見方ができる人材となるような授業を展開する。

2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	基礎学力到達度テスト対策 [2] 基礎学力到達度テスト(4/20)	基礎学力到達度テストの類題などで対策を行い、 しっかり解けるような学力を身につける。
	5	基礎学力到達度テスト(9月) に向けた演習	教科書や問題集、基礎学力到達度テストの類題な どを用いて公式や解法の確認などを行い、基本か ら標準レベルまではしっかり解けるような知識 や学力を身に付ける。
		1 学期中間試験(5/22～25) 1 学期中間まで【9】	
	6	基礎学力到達度テスト(9月) に向けた演習	
		日大チャレンジ模試(5/31) 基礎学力到達度テスト(9月) に向けた演習	
	7	1 学期期末試験(6/27～6/30) 1 学期期末まで【12】	
		基礎学対策模試(7/18)	
【課題・提出物】 プリント課題			
【第1学期の評価方法】 定期試験の成績(70%)・・・1 学期中間試験・1 学期期末試験の計2回。 課題提出物等の平常点(30%)・・・プリント課題・春季課題の提出状況の評価する。			

	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9	基礎学力到達度テスト(9月)対策 [9] <div style="text-align: center;">校内日大模試(9/4)</div> <div style="text-align: center;">基礎学力到達度テスト(9/28)</div>	基礎学力到達度テストの類題などを用いて対策を行い、基本から標準レベルまではしっかり解けるような知識や学力を身に付ける。
	10	高校数学総復習 <div style="text-align: center;">2学期中間試験(10/10~13)</div> <div style="text-align: center;">2学期中間まで【3】</div>	進学後も必要となる内容の定着・発展できる知識や学力を身に付ける。
	11	高校数学総復習	
	12	<div style="text-align: center;">2学期期末試験(12/5~8)</div> <div style="text-align: center;">2学期期末まで【19】</div>	
【課題・提出物】 プリント課題・夏季課題			
【第2学期の評価方法】 定期試験の成績(80%)・・・2学期中間試験・2学期期末試験(年間評価) 課題提出物等の平常点(20%)・・・2学期までの課題の提出状況进行评估する。			

	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	12 1	検定試験等を含めた総合演習 <div style="text-align: center;">特別授業(1/12~26)</div>	多様な物の見方ができる人材となるような教養や知識を身に付ける。
	【課題・提出物】		
【第3学期の評価方法】			
【年間の学習状況の評価方法】 定期試験の成績(80%)・・・3学年時の定期試験の計4回(年間評価) 課題提出物等の平常点(20%)・・・3学期までの課題の提出状況进行评估する。			

3. 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	各単元の内容に関心をもち、積極的に授業へ参加し、課題などにも意欲的に取り組むことができる。	授業態度 課題の取り組み方
思考・判断	各単元での抽象的内容を正しく捉え、その過程を多面的・発展的に考えることができる。	授業態度 確認カード 課題の取り組み方 定期試験
技能・表現	各単元に応じた数学的な表現に対する処理の方法を身に付け、適切に扱うことができる。	授業態度 確認カード 課題の取り組み方 定期試験
知識・理解	各単元の内容を正しく理解し、定理などを体系的に整理することができる。	課題の取り組み方 確認カード 定期試験

4. 学習サポート

1 学年から積み重ねてきた知識の集大成です。1 学年、2 学年の数学で解らない部分は、早い時期に復習するなど、教科担当の先生と相談しながら対策していきましょう。授業中の理解も同様に、少しでも疑問に思う部分は担当の先生に早めに質問し、授業についていけるよう努力していきましょう。諦めたらそこで終了となります。更なる自己の成長のため、諦めずに最後まで頑張りましょう。

科目	単位数	対象学年	対象クラス
数学B	2	3学年	Iコース文系

教科書名 改訂版 新編 数学I・A・II・B (数研出版)

副教材名 基本と演習テーマ 数学I+A・II+B (数研出版)

1. 科目目標

- ・基礎学力到達度テストに対応できる学力を身につける。
- ・知識の習得と技能の習熟を図り、数学的な考え方（論理的思考）を身につける。
- ・自発的な学習ができるような授業を展開し、家庭学習の確保に努める。
- ・高校数学の良さを理解し、多様な物の見方ができる人材となるような授業を展開する。

2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	基礎学力到達度テスト対策 [2] 基礎学力到達度テスト(4/20)	基礎学力到達度テストの類題などで対策を行い、 しっかり解けるような学力を身につける。
	5	基礎学力到達度テスト(9月) に向けた演習	教科書や問題集、基礎学力到達度テストの類題な どを用いて公式や解法の確認などを行い、基本か ら標準レベルまではしっかり解けるような知識 や学力を身に付ける。
		1学期中間試験(5/22～25) 1学期中間まで【9】	
	6	基礎学力到達度テスト(9月) に向けた演習	
		日大チャレンジ模試(5/31) 基礎学力到達度テスト(9月) に向けた演習	
	7	1学期期末試験(6/27～6/30) 1学期期末まで【12】	
		基礎学対策模試(7/18)	
【課題・提出物】 プリント課題			
【第1学期の評価方法】 定期試験の成績(70%)・・・1学期中間試験・1学期期末試験の計2回。 課題提出物等の平常点(30%)・・・プリント課題・春季課題の提出状況进行评估する。			

	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9	基礎学力到達度テスト(9月)対策 [9] <div style="text-align: center;">校内日大模試(9/4)</div> <div style="text-align: center;">基礎学力到達度テスト(9/28)</div>	基礎学力到達度テストの類題などを用いて対策を行い、基本から標準レベルまではしっかり解けるような知識や学力を身に付ける。
	10	高校数学総復習 <div style="text-align: center;">2学期中間試験(10/10～13)</div> <div style="text-align: center;">2学期中間まで【3】</div>	進学後も必要となる内容の定着・発展できる知識や学力を身に付ける。
	11	高校数学総復習	
	12	<div style="text-align: center;">2学期期末試験(12/5～8)</div> 2学期期末まで【19】	
【課題・提出物】 プリント課題・夏季課題			
【第2学期の評価方法】 定期試験の成績(80%)・・・2学期中間試験・2学期期末試験(年間評価) 課題提出物等の平常点(20%)・・・2学期までの課題の提出状況进行评估する。			

	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	12	検定試験等を含めた総合演習	多様な物の見方ができる人材となるような教養や知識を身に付ける。
	1	<div style="text-align: center;">特別授業(1/12～26)</div>	
	【課題・提出物】		
【第3学期の評価方法】			
【年間の学習状況の評価方法】 定期試験の成績(80%)・・・3学年時の定期試験の計4回(年間評価) 課題提出物等の平常点(20%)・・・3学期までの課題の提出状況进行评估する。			

3. 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	各単元の内容に関心をもち、積極的に授業へ参加し、課題などにも意欲的に取り組むことができる。	授業態度 課題の取り組み方
思考・判断	各単元での抽象的内容を正しく捉え、その過程を多面的・発展的に考えることができる。	授業態度 確認カード 課題の取り組み方 定期試験
技能・表現	各単元に応じた数学的な表現に対する処理の方法を身に付け、適切に扱うことができる。	授業態度 確認カード 課題の取り組み方 定期試験
知識・理解	各単元の内容を正しく理解し、定理などを体系的に整理することができる。	課題の取り組み方 確認カード 定期試験

4. 学習サポート

1 学年から積み重ねてきた知識の集大成です。1 学年、2 学年の数学で解らない部分は、早い時期に復習するなど、教科担当の先生と相談しながら対策していきましょう。授業中の理解も同様に、少しでも疑問に思う部分は担当の先生に早めに質問し、授業についていけるよう努力していきましょう。諦めたらそこで終了となります。更なる自己の成長のため、諦めずに最後まで頑張りましょう。

科目	単位数	対象学年	対象クラス
生物基礎	2	3 学年	I コース文系

教科書名 生物基礎（数研出版）

副教材名 スクエア最新図説生物（第一学習社） セミナー生物基礎（第一学習社）

スタディアップノート生物基礎（数研出版）

1. 科目目標

1. 「生物」の面白さを知る

「生物」という科目では、生命現象のしくみや生命同士のつながり、生命の歴史について学ぶ。これらは、生命のひとつである「自分自身」を知ること・理解することであり、考えることだ。生命の神秘さ、面白さを知る。

2. 客観的な視点を育む

「生物」の学びを通して、「自分自身」や「自分自身をとりまく世界」を客観的に理解する視点を育む。

3. 探究心・言語表現力を育む

「生物」で学ぶ内容は、自分自身のからだや生活、社会と密接に関わるものが多い。このため、教科書に加えて新聞記事などを利用し、知識や理解をさらに深める。また、生命倫理に関する問題などについては、ディベートやレポートを通して言語表現力を育む。

2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4 5 6	第3編 生物の多様性と生態系 第4章 植生の多様性と分布 1. 植生とその成り立ち 2. 植生の遷移 3. 気候とバイオーム	第3編 生物の多様性と生態系 【植生の多様性と分布・気候とバイオーム】 植生について、その構造や遷移のしくみについて学習する。さらに、地球上にはさまざまなバイオームが見られ、バイオームの分布は、気温と降水量によって決まることを理解する。
		1 学期中間試験 [8時間] 第5章 生態系とその保全 1. 生態系とその成り立ち 2. 物質循環とエネルギーの流れ 3. 生態系のバランスと保全 1 学期期末試験 [8時間]	【生態系とその保全】 生態系の成り立ち、生態系における物質循環とエネルギーの流れについて学習する。その上で、生態系はそのバランスが保たれていること、人類は生態系のバランスに大きな影響を与えていることなどを理解する。

	【課題・提出物】 ・ 定期試験ごとにセミナー生物基礎の指定された問題を解答して、提出する		
	【第1学期の評価方法】 ・ 定期試験の成績（70%） ・ 学習態度及び提出物（30%）		
	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	7	生態系に関する調べ学習	生態系に関する調べ学習 絶滅危惧種や特定外来生物に関するレポートを作成し、レポートの作成方法や探究方法を学ぶとともに、現在の生態系に関する知見を深める。またその後、グループワークを行い、ポスター作製・発表を通して、表現する方法を学習する。 3学期に鑑賞する「地球大進化」への理解を深めるため、地球の誕生から人類の出現、また進化のしくみについて学習する。
	9	1. 絶滅危惧種レポート作成 2. 特定外来生物レポート作成	
	10	3. 絶滅危惧種もしくは特定外来生物に関するグループ発表 2学期中間試験 [9時間] 生命の起源と進化	
	11	2学期期末試験 [11時間]	
12			
	【課題・提出物】 ・ 定期試験ごとにセミナー生物基礎の指定された問題を解答して、提出する ・ 絶滅危惧種、特定外来生物に関するレポート ・ 問題冊子(進化)の提出		
	【第2学期の評価方法】 ・ 定期試験の成績（80%） ・ 学習態度及び提出物（20%）		
	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	地球大進化（DVD）鑑賞およびレポート作成 3学期期末試験 [6時間]	地球大進化 地球の誕生から人類の繁栄までを映像で学習し、我々はどのように進化して現在の形態や生活様式を獲得してきたのか、その過程について理解を深める。また、レポート作成を通して科学的に考察し表現する方法を学習する。
		【課題・提出物】 ・ 地球大進化に関するレポート	
	【第3学期の評価方法】 ・ 学習態度及び提出物（100%）		
【年間の学習状況の評価方法】 ・ 年間の成績は、学年末に各学期の成績を総合して評価する			

3. 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	・生物や生物現象を通して自然に対する関心や探究心をもち、基本的な概念や原理・法則を理解する意欲とともに、科学的な自然観や生物学的に探究する能力と態度を身につけようとする。	・授業時の様子 ・課題提出 ・定期テスト
思考・判断	・生物学的な方法で生物や生物現象に関する問題を取り扱い、自然を科学的にとらえられる。	・授業時の様子 ・課題提出 ・定期テスト
技能・表現	・生物現象について探究する場合に、それらを個々のレベルで分析すると同時に、全体を総合的にとらえ、それを表現することができる。	・授業時の様子 ・課題提出 ・定期テスト
知識・理解	・生物や生物現象について、それらの基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を身につけている。 ・自然界の様々な事象を科学的に考察する能力と、豊かな科学的素養が身につけている。	・授業時の様子 ・課題提出 ・定期テスト

4. 学習サポート（事前・事後学習等について）

<ul style="list-style-type: none"> ・ 随時、学習相談を実施しています。 ・ 授業内容と問題集の橋渡しとして、單元ごとに演習プリントによる演習を行います。
--

教科・科目	単位数	対象学年	対象クラス
体育	3	3	I・IIコース共通

教科書名 現代高等保健体育

副教材名 現代高等保健体育ノート

1. 教科目標

生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため

- (1) 運動の多様性や体力の必要性を理解し、それらの知識・技能を身に付ける。
- (2) 自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。
- (3) 健康・安全を確保し、運動に親しむ態度を養う。

2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	集団行動 ①挨拶・集合・体形 ②方向変換・列の増減 体づくり運動・体育理論（通年で行う） (1) 体づくり運動 ①体ほぐしの運動 ②実生活に生かす運動の計画 (2) 体育理論 スポーツの文化的特性や現代スポーツの発展（1年次） 運動やスポーツの効果的な学習の仕方（2年次） 豊かなスポーツライフの設計の仕方（3年次） 陸上競技〔走〕ア競争 ①短距離走 ②持久走	<ul style="list-style-type: none"> ・集団の一員として迅速に、かつ安全に行動できる力を身に付ける。 ①のびのびとした動作で用具などを用いた運動を行うことを通して、気付きや関わり合うことを身に付ける。 ②健康に生活をするための体力の向上、運動を行うための体力の向上を図る運動の計画と実践に取り組む姿勢を養う。 ・以下4項目に関し、体育実技の実施と関連させながら学習する。 ①スポーツの歴史的発展と多様な文化 ②現代スポーツの意義や価値 ③スポーツの経済的効果と高潔さ ④スポーツが環境や社会にもたらす影響 ・2年次までの学習を踏まえて、記録の向上や競争の楽しさを味わう。 ・ルールマナーを大切にし、役割を積極的に引き受け、自己の責任を果たすことに意欲を持って取り組む。 ・毎年継続して記録する、スポーツテスト〔走〕の種目の自己の目標達成及び記録向上を目指す。

	<p>スポーツテスト（新体力テスト） 種目：握力・上体起こし・長座体前屈・反復横とび・持久走・50m走・立ち幅跳び・ハンドボール投げ</p> <p>ソフトテニス</p> <p>① オリエンテーション</p> <p>② グランドストローク (フォア・バック・ロブ)</p> <p>③ バックハンド</p> <p>④ サービス</p> <p>⑤ ルール</p> <p>⑥ ゲーム（簡易ゲーム・ダブルス）</p> <p>理論 ソフトテニスの特性・ルール・試合運営などを学ぶ</p>	<p>・自分の今持っている体力を知り日常の運動の習慣を身につけ、生涯スポーツに繋がる土台を養う。</p> <p>ソフトテニスの基礎技術を身につけ、ネット型スポーツの特性を理解する。 (生徒自らが)主体的にゲームを中心とした活動が出来る力を育成する。 フォアハンド、ロブを重点に習得し、ラリー（乱打）を継続できる力を身に付ける。 バックハンドの技術, およびサービスを狙った所へ打つことの出来る力を身につける。 生徒の技量に合わせた内容で試合（簡易ゲーム含）が出来る力を身に付ける。</p> <p>生涯スポーツの選択肢の一つとして、ソフトテニスも含まれるような知識、技能を習得する。</p>
<p>【課題・提出物】 期末試験前後にソフトテニスに関するレポート・小テストを実施する。</p>		
<p>【第1学期の評価方法】</p> <p>1. 実技試験（60%）</p> <p>①ソフトテニスの基礎技術に関する試験を実施する。 グランドストローク（フォア・バック）、サービス、簡易ゲームによる技術的評価</p> <p>②スポーツテスト（新体力テスト）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・50m走、持久走、ハンドボール投げ、反復横とび、長座体前屈、握力、上体起こし、立ち幅跳び <p>※実施時間数によって上記種目から選択をし、評価に加える。</p> <p>2. 授業態度・意欲・服装・出席状況・ルール小テストなど学習態度等の平常点（40%）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に授業へ参加し、準備や片付けも協力してできる。 ・正しい服装で授業へ参加できている。 ・ルール等の確認テスト。 		

	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9	<p>体づくりの運動</p> <p>① 体ほぐしの運動</p> <p>② 体力を高める運動</p>	<p>長期休業後の体力回復、怪我、病気等の予防につながる力を養う。</p> <p>特に柔軟・心肺機能の向上を目的とする。</p>

	10 11 12	〔球技選択〕 バスケットボール バレーボール サッカー ソフトボール等 ・ゲーム・簡易ゲーム形式中心で実施 体育理論 ・実施する種目のルール・技術の知識の習得	今まで学んできた球技を中心とした種目を、競技レベルに合わせた内容で、自らが主体的となって種目（授業）を展開する力を身に付ける。 生涯スポーツにつなげられるよう、多岐にわたる種目を選択・実施する。 実施する種目ごとに基礎的スキル・ルール、ゲームの進め方についての知識・技能を習得する。
	【課題・提出物】 期末試験前後に選択種目内から選び、レポート・小テストを実施する。		
	【第2学期の評価方法】 ①実技試験（60%） ・主とする実施種目への取り組み及びスキル評価表を基に評価する。 ※選択種目等により評価の違いが出ないように、教科会で審議の上、内容を決定する。 ②授業態度・意欲・服装・出席状況・ルール小テストなど学習態度等の平常点(40%) ・積極的に授業へ参加し、準備や片付けも協力してできる。 ・正しい服装で授業へ参加できている。		
	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	〔球技選択〕	授業を通じて仲間との協力、協調、楽しさや喜びを学習する。 種目のルール、試合運営を学び、仲間と協力してゲームを進める力を身に付ける。
	【課題・提出物】 なし		
	【第3学期の評価方法】 ①実技試験・授業への取り組み（60%） ・主とする実施種目への取り組みを基に評価をする。 ②授業態度・意欲・服装・出席状況・ルール小テストなど学習態度等の平常点(40%) ・積極的に授業へ参加し、準備や片付けも協力してできる。 ・正しい服装で授業へ参加できている。		
	【年間の学習状況の評価方法】1学期末と2学期末に進学用の仮評定を算出する。 学年末の評定（評価）は1学期・2学期・3学期の実技の平均（60%） 年間の授業態度・意欲・服装・出席状況（40%） 上記を総合的に判断して評価をする。		

3. 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	欠席が少なく、授業への積極的参加ができる。 安全に配慮し主体的に取り組むことができる。 多様性を理解し仲間と協力することができる。 健康・安全に配慮した服装でできる。	観察
思考・判断	自己や仲間の状況に応じて体力向上を目的とした運動を継続できるような計画が工夫できる。 課題解決のために身に着けた技能を生かすことができる。	観察
技能・表現	各運動の特性に応じ勝敗を競い合う、攻防が展開できる。 実施する種目の特性に応じ段階的な技能を身に付け、自分が表現したいことができる。	実技テスト 観察
知識・理解	選択した運動の技術（技）の名称やルールを学び、主体的に試合をすすめることができる。 簡易ゲーム、ミニゲームを運営し、審判などでゲームを進めることができる。	小テスト 観察

4. 学習サポート

実技科目の特性上、基本は授業内で実施をするが、必要性や状況に応じて対応をする。

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
コミュニケーション英語Ⅲ	5	3	文系・理系

教科書名 Revised BIG DIPPER English Communication III (数研出版)

副教材名 英語速読 10分テスト Rapid Reading 改訂版 Level2 (美誠社)

PATHFINDER【標準編】(いいずな書店)

英単語ターゲット 1200 (4訂版)(旺文社) Listening Platform 2 (いいずな書店)

1. 科目目標

- | |
|---|
| <p>① 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を更に伸ばし、社会生活において活用できるようにする。</p> <p>② 基礎学力到達度テストや大学入試等に意識を向けて、長文読解力を伸ばす。</p> |
|---|

2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容		学習のねらい	
1 学 期	4月 5月	●Rapid Reading	●PATHFINDER	<ul style="list-style-type: none"> 多くの長文読解に取り組み、読解力・速読力を身につける。 英単語の反復練習を行ない、音読を通して本文の内容や英文の構造を理解する 基礎学力到達度テストの長文読解を学習する。 	
		第1回	Lesson1		
		第2回	Lesson2		
		第3回	Lesson3		
		第4回	Lesson4		
		■日大チャレンジ			
		1 学期中間試験			
	6月 7月	第5回	Lesson5	<ul style="list-style-type: none"> 多くの長文読解に取り組み、読解力・速読力を身につける。 英単語の反復練習を行ない、音読を通して本文の内容や英文の構造を理解する 基礎学力到達度テストの長文読解を学習する。 	
第6回		Lesson6			
第7回		Lesson7			
第8回		Lesson8			
	1 学期期末試験				
	■基礎学対策模試				
	<p>【課題・提出物】</p> <ul style="list-style-type: none"> 休業期間中の課題 授業用ノート・プリント 				

	【1学期の評価方法】 定期試験素点：70%（1学期中間試験・1学期期末試験） 平常点：30%（提出物・小テスト・授業態度）		
月	学習内容	学習のねらい	
2 学 期	9月	■校内日大模試 第9回 Lesson9 第10回 Lesson10 第11回 Lesson11 10月 第12回 Lesson12	・多くの長文読解に取り組み，読解力・速読力を身につける。 ・英単語の反復練習を行ない，音読を通して本文の内容や英文の構造を理解する。 ・基礎学力到達度テストの長文読解を学習する。
	2学期中間試験		
	11月	●BIG DIPER Lesson 2 Three Tips for Maintaining a Conversation Lesson 3 Do You Judge people by Their Blood Types? Lesson 5 The 55-Year Race	・情報を追加および列挙する表現を身につける。 ・例を挙げる表現を身につける。 ・時間的順序を表す表現を身につける。
	12月	Lesson6 After the Flowers Lesson8 <i>Kintsugi</i> Lesson9 Alfred Nobel: A Person of Peace	・因果関係の表現を身につける。 ・対比の表現を身につける。 ・譲歩の表現を身につける。
	2学期期末試験		
	【課題・提出物】 ・休業期間中の課題 ・授業用ノート・プリント		

	【2学期の評価方法】 定期試験素点：80%（2学期中間試験・2学期期末試験） 平常点：20%（提出物・小テスト・授業態度）		
	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	12月	Lesson 17	・語彙，表現力を育成する。
	1月	The Shoe That Grows	
	【課題・提出物】 ・休業期間中の課題 ・授業用ノート・プリント		
【3学期の評価方法】 定期試験素点：80%（1学期中間試験・1学期期末試験・2学期中間試験・2学期期末試験） 平常点：20%（提出物・小テスト・授業態度）			
【年間の学習状況の評価方法】 定期試験素点：80%（定期試験素点の平均点） 平常点：20%（平常点の平均点）			

3. 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	単元毎のテーマに関心を持ち，自ら学習に取り組むことができる。	授業への参加姿勢 小テスト 定期試験
思考・判断	単元毎のテーマに関して，自ら考え，自らの意見を持っている。	授業への参加姿勢
技能・表現	英語を用いて正しく単語・文法を書くことができる。また，自分の意見を相手に伝えようとする。	授業への参加姿勢 小テスト 定期試験
知識・理解	日本語訳に頼ることなく，英語の内容を理解することができる。	小テスト 定期試験

4. 学習サポート（事前・事後学習等について）

<p>受験に向けて『問題を解く→解説を聞く→復習する』のサイクルを大切に，問題を解くために必要な知識を身につけましょう。長文を理解するために必要な単語を予習と復習で、文法知識を授業で習得しましょう。繰り返し復習することを習慣にし，受験に必要な長文読解の力を身につけましょう。</p>

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
英語表現Ⅱ	3	3	文系・理系

教科書名 Vision Quest English Expression II Hope

副教材名 スクランブル英文法・語法 Basic 3rd Edition

スクランブル英文法・語法 Basic 3rd Edition 準拠トレーニング問題集

1. 科目目標

- | |
|--|
| <p>① 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を伸ばす。</p> <p>② 基礎学力到達度テストや大学入学共通テスト等に意識を向けて、単語や文法の力を伸ばす。</p> |
|--|

2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい		
1 学 期	4月	【スクランブル英文法】 第1－1章 動詞・文型① 第1－2章 動詞・文型② 第2章 時制 第3章 受動態 第4章 助動詞 ○日大チャレンジ	・基礎学力到達度テストの文法の問題を学習する。		
	5月				
	1 学期中間試験				
	6月			第5章 不定詞 第6章 動名詞 第7章 分詞 第8章 仮定法 第9章 名詞・冠詞 第10章 代名詞 第11章 関係詞 ○基礎学対策模試	・基礎学力到達度テストの文法の問題を学習する
	7月				
1 学期期末試験					
【課題・提出物】 <ul style="list-style-type: none"> ・休業期間中の課題 ・授業用ノート・プリント 					
【1 学期の評価方法】 定期試験素点：70%（1 学期中間試験・1 学期期末試験） 平常点：30%（提出物・小テスト・授業態度）					

	月	学習内容	学習のねらい	
2 学 期	9月	○校内日大模試	・基礎学力到達度テストの文法の問題を学習する	
	10月	第12章 形容詞・副詞 第13章 比較 第14章 接続詞 第15章 前置詞 第16章 疑問・否定 第17章 強調・倒置・省略		
	2学期中間試験			
	11月	【Vision Quest English Expression II Hope】 Part 2 Lesson 1～3	・「パラグラフの構成／列挙・順序」, 「例示・追加」,「比較・対照」を学習する。	
	12月	2学期期末試験		
	【課題・提出物】 ・休業中の課題 ・授業用ノート・プリント			
【2学期の評価方法】 定期試験素点：80%（2学期中間試験・2学期期末試験） 平常点：20%（提出物・小テスト・授業態度）				
	月	学習内容	学習のねらい	
3 学 期	12月	Lesson 4～5	・「原因・理由・結果」,「要点・要約」を学習する。	
	1月			
	【課題・提出物】 ・授業用ノート・プリント			
	【3学期の評価方法】 定期試験素点：80%（1学期中間試験・1学期期末試験・2学期中間試験・2学期期末試験） 平常点：20%（提出物・小テスト・授業態度）			
【年間の学習状況の評価方法】 定期試験素点：80%（定期試験素点の平均点） 平常点：20%（平常点の平均点）				

3. 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	自ら進んで授業に参加し、積極的に意見を述べることができる。	授業への参加姿勢 小テスト 定期試験
思考・判断	論理的に物事を捉えることができる。	授業への参加姿勢 小テスト 定期試験
技能・表現	話すこと・書くことを通して、自分の考えを正確に表現することができる。	授業への参加姿勢 小テスト 定期試験
知識・理解	文法を用いて英文を構成することができる。	小テスト 定期試験

4. 学習サポート（事前・事後学習等について）

文法は長文を読み解く大切な要素です。基礎の復習を徹底して行ない、系統的に理解しましょう。

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
情報の科学	1	3 学年	I・IIコース

教科書名 情報の科学（日本文教出版）

副教材名 情報モラル（数研出版）

1 科目目標

- | |
|---|
| <p>① 現代社会の基盤を構成している情報にかかわる知識や技術を、科学的な見方・考え方で理解し習得する。また情報を利用する上で大切なモラルの向上を目指す。</p> <p>② 各種情報機器やインターネットの利用を通じて、科学的思考力や判断力などを養う。</p> <p>③ 各種プログラミングを通じて問題解決能力を身に付ける。</p> |
|---|

2 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	<ul style="list-style-type: none"> ➤ ガイダンス ● PC・教室利用について ● PCの個人設定 ● タイピング 	<ul style="list-style-type: none"> ・PCの個人設定を行い、利用環境を整える。 ・タイピングソフトの利用の仕方を確認し、タイピングに取り組む。
	5	<ul style="list-style-type: none"> ➤ アルゴリズムとプログラミング JavaScript ● 処理手順 ● いろいろなアルゴリズム 	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラムの流れを構造的に図示できるフローチャートや処理手順について理解する。 ・JavaScriptプログラミングを行い、動作させることができる。
	6	<ul style="list-style-type: none"> ➤ ネットワークの動作としくみ ● 通信の仕組み ● IPアドレス、ホスト名 ● プロトコル ● インターネットの仕組み ● ドメイン名 ● DNSサーバの役割 	<ul style="list-style-type: none"> ・通信に必要な知識や用語を理解し、その仕組みや役割について理解できる。 ・インターネットの仕組みや各種機器の役割を理解し、実際に通信するための情報をネットワークから取得できる。
	7	1 学期期末試験	
<p>【課題・提出物】 授業で配布する資料プリント，授業ノート 実技演習課題</p>			
<p>【1 学期の評価方法】</p> <p>① 学期末試験 50% 1 学期期末試験のみ筆記試験を行う。中間試験は行わない。知識・理解の確認とともに、タイピングの知識などを見る問題も出題する。</p> <p>② 実習課題等 30% 実習時の演習課題ならびにタイピングの能力を評価する。</p> <p>③ 平常点 20% 課題の提出状況やノートの確認を通して評価する。</p>			

	月	学習内容	学習のねらい	
2 学 期	9	<ul style="list-style-type: none"> ➤ インターネット ● WWW について ● URL の概念 ● Web ページ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ Web ページが閲覧できる仕組みを知り，Web サイトを表す URL の構造や意味を理解する。 ・ Web ページを便利に利用するため，検索サイトの構造や使用法について理解する。 ・ インターネットを利用した犯罪や脅威について理解する。 ・ インターネットや情報を安全に利用できるような仕組みについて理解し，安全な利用法について理解する。 ・ 不正なアクセスやなりすましなどから情報を守るセキュリティ技術について理解し，安全に情報を管理し利用しようとする意識を持つ。 	
	10	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 情報セキュリティ 1 ● 不正アクセス ● ファイアウォール ● コンピュータウイルス ● スパイウェア 		
		<ul style="list-style-type: none"> ➤ 情報セキュリティ 2 ● 情報の暗号化の仕組み ● 共通鍵暗号方式 ● 公開鍵暗号方式 ● 電子署名，ハイブリッド暗号方式 		
	11	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 表計算ソフト ● 表計算ソフトの基礎 ● 計算式 ● 基本の関数 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 広く一般に利用されている表計算ソフトの使い方を理解し，計算式や関数を使用して計算の自動化ができる。
	12	2 学期期末試験		
<p>【課題・提出物】 授業で配布する資料プリント，授業ノート 実技演習課題</p>				
<p>【2 学期の評価方法】</p> <p>① 学期末試験 50% 2 学期期末試験のみ筆記試験を行う。中間試験は行わない。 知識・理解の確認とともに，タイピングの知識などを見る問題も出題する。</p> <p>② 実習課題等 30% 実習時の演習課題ならびにタイピングの能力を評価する。</p> <p>③ 平常点 20% 課題の提出状況やノートの確認を通して評価する。</p>				

	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 表計算ソフト ● いろいろな関数 ● グラフ表示 	<ul style="list-style-type: none"> ・表計算ソフトで使用できる便利な関数について知識を深める。 ・グラフ作成の技術を身に付ける。
	【課題・提出物】 実技演習課題		
	【3学期の評価方法】 1学期と2学期の学期末試験をあわせて評価する。		
【年間の学習状況の評価方法】 1学期末と2学期末の成績を統合して評価する。			

3 観点別評価内容および評価方法

	観点別評価内容	評価方法
関心・意欲・態度	情報に関わる内容に興味を持ち、進んでタイピングやプログラミング等の実習に取り組むことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・タイピングテスト ・プログラミング ・授業時の取り組み
思考・判断	モラルやセキュリティに興味を持ち、情報を正しく判断できる。 処理手順を理解し適切なプログラムを構築できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・実技演習課題 ・プログラムエラー処理
技能・表現	プログラミング、エラー処理等の一連の作業ができ、プログラムを動作させることができる。またブラインドタッチなどの技能を修得し、すばやい入力ができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラムエラー処理 ・実技演習課題
知識・理解	情報に関する知識や用語の意味を知り、適切に利用できる。また OS やアプリケーションソフトの使い方を理解できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業ノート ・実技演習課題

4 学習サポート（事前・事後学習等について）

<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータリテラシーとしてタイピング技術を身につけ、ブラインドタッチに挑戦しましょう。 ・実技については、毎時間課題を課し、時間ごとの内容を確認するのもしっかり覚えましょう。
--

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
総合探究	1	3年生	全

教科書名 なし ※プリント学習

副教材名 なし _____

1. 科目目標

- | |
|---|
| ① Use active learning to foster independent thinking in a group setting.
② Cooperate with class members to solve problems through discussion.
③ Present individual and group ideas in front of the class. |
|---|

2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	Task 1 What's cooking?	Instructing others Presenting in front of other people
	5	Task 2 Class Survey	Creating and conducting a survey Reporting and presenting findings
	6		
	7	GTEC Practice and Strategies	Practicing for the GTEC test
【課題・提出物】 N/A			
【1学期の評価方法】 Observation by homeroom teacher			
	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9	Task 3 My Prized Possession	Presenting individually about a possession, describing it and explaining why it is important to you
	10	Task 4 Nandemokantedan	Presenting an item to other groups Understand descriptions in order to choose wisely as a group
	11		
	12	Task 5 Work, Work, Work	Choosing the right person for an occupation through group discussion Stating reasons for opinions
		GTEC Practice and Strategies	Practicing for the GTEC test

	【課題・提出物】 N/A	
	【2学期の評価方法】 Observation by homeroom teacher	
	月	学習内容
3 学 期	1	Task 6 Revitalizing Fukushima
		学習のねらい
		Designing a project to revitalize Fukushima Giving reasons and explaining ideas in a presentation
	【課題・提出物】 N/A	
	【3学期の評価方法】 Observation by homeroom teacher	
【年間の学習状況の評価方法】 Observation by homeroom teacher		

3. 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	Participation in group discussions	Observation by homeroom teacher
思考・判断	Sharing thoughts in presentations	Observation by homeroom teacher
技能・表現	Smoothness in presentation	Observation by homeroom teacher
知識・理解	Content of discussions and presentations	Observation by homeroom teacher

4. 学習サポート（事前・事後学習等について）

Try to speak only in English.
Say at least a few things in English every week.
Use a dictionary every lesson.
Try your best!